

今月はICO 8月マーケットレポート及びトピックスとして、①ICO国際コーヒーの日、②中国の若者、③持ち歩きコーヒー、④コーヒーと健康をお送りします。



コーヒー価格は、4カ月ぶりの最高値を付けた後、十分な在庫量を背景に下落した。

ICO複合指標価格は一時的に135米セント/LBを上回った後、6月の水準まで下落した。この下げは今コーヒー年度のこれまでの累計輸出量が多く（前年度比5.9%増）、輸入国の国内在庫が増えていたことによるものである。ベトナムの2017/18年度及びブラジルの2018/19年度のコーヒー生産見通しは概ね明るいと言えるだろう。

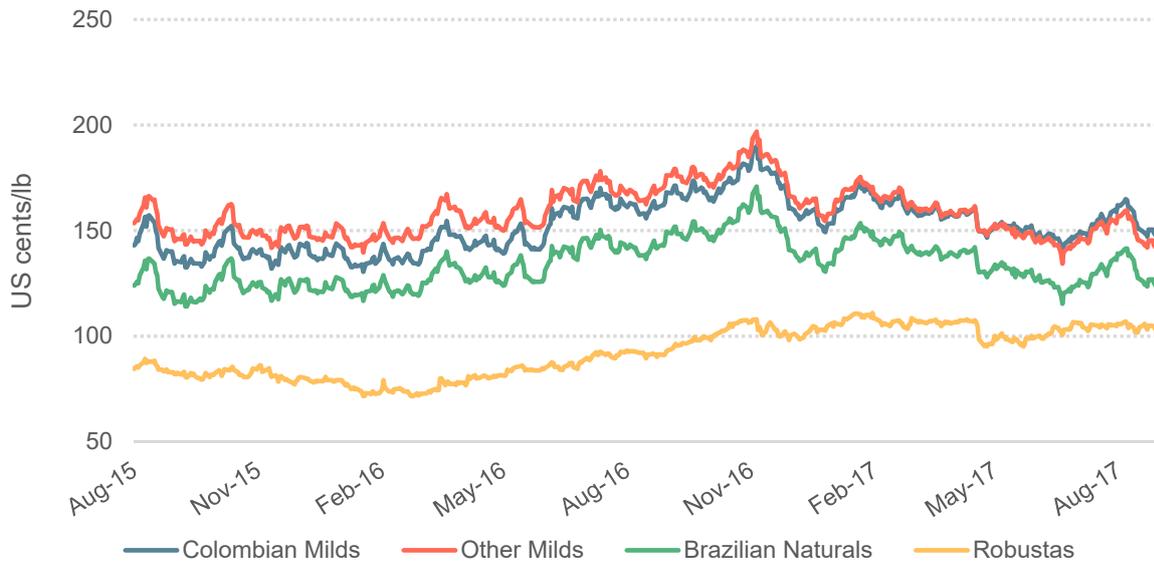
グラフ 1: ICO 日次複合指標価格



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

8月のコーヒー価格については、月初は7月の上昇基調が継続した。ICO複合指標価格は、8月8日には最近4カ月間の最高値となる135.23米セント/LBを記録した。しかしその後コーヒー価格は大幅に下げ8月24日の日次複合指標価格は122.59米セント/LBを付けた。そして最終日、8月31日には123.45米セント/LBとなり、ほぼ横ばい水準で終了した。この結果、ICO複合指標価格の月間平均値は先月比0.8%高い128.24米セント/LBとなった。

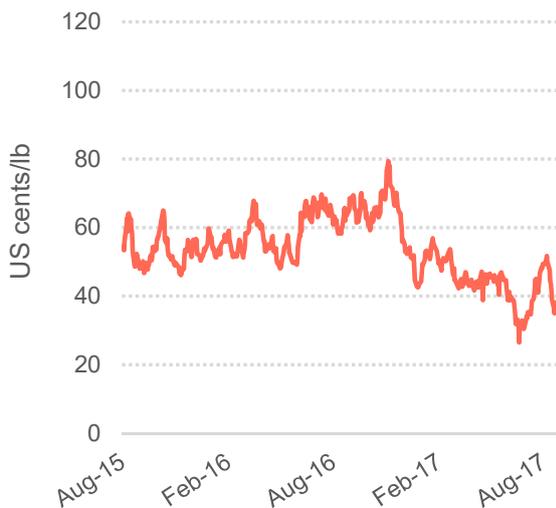
グラフ 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

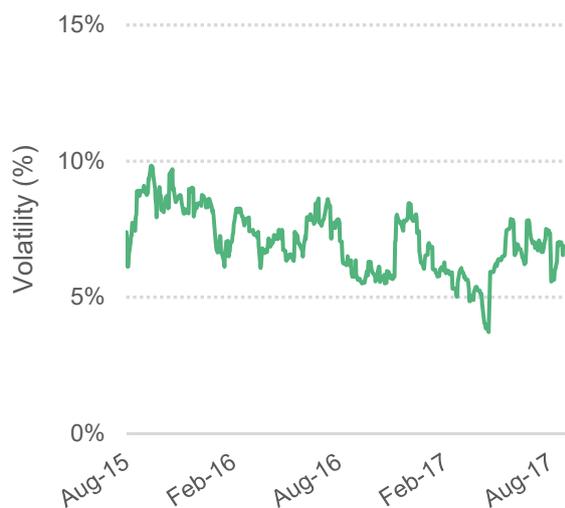
8月のグループ指標価格は二つのコーヒーグループ間で反対の動きを示した。アラビカコーヒーグループは大きく上下したが、3アラビカグループは全て上がり、コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラルの月間平均指標価格は夫々1.7%、0.1%、2.1%上昇した。一方、ロブスタコーヒーのグループ価格は、値動きは小さかったが、下落傾向が続いた。結果、ロブスタグループ指標価格の月間平均値は7月に比べ1.9%下落した。ニューヨークとロンドン先物市場価格で計算する8月のアービトラージ月間平均値は8.9%上昇し43.22米セント/LBとなった。ICO複合指標価格の価格変動率は0.9%低い6.6%になった。

グラフ 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

グラフ 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率



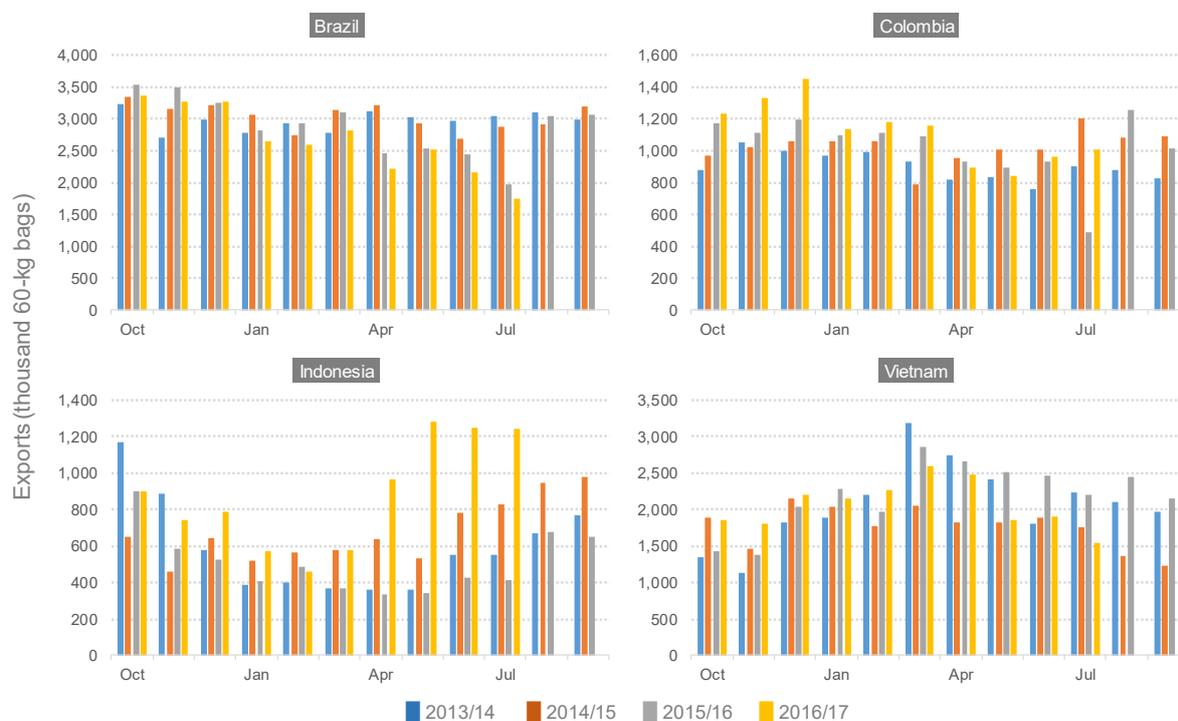
© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

7月の輸出は引き続き活発だった。生産国の月間総輸出量は2016年7月に比べ11%増え、9.4百万袋となった。2016/17年度最初の10カ月間の累計輸出量は、前年度同期間輸出実績の96.3百万袋を5.7百万袋上回り100百万袋を突破した。しかし、主要生産国の輸出の中身を見ると夫々独自の違った状況が見て取れる。

ブラジルは、7月の輸出量は前年比11%少なかった。ブラジルの輸出量は1.75百万袋だったが、その内1.5百万袋はコーヒー生豆だった。また生豆輸出量の98.9%がアラビカコーヒーだった。この月間輸出量は2004年2月以来の最少記録であり、これはロブスタコーヒーの不作及びブラジルレアルの対米ドル為替レートが悪化した為ブラジルコーヒーの価格競争力がなくなったことによるものである。

世界第2位の生産国ベトナムは、7月の輸出量は1.55百万袋に達したようだが、前年対比では29.6%少ない数字となっている。しかし、2016/17年度最初の10か月間の累計輸出量を見ると前年同期比5.4%減である。

グラフ 5: 主要生産国の月間輸出量推移



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

一方コロンビアは、輸出量が大幅に増えている。7月の輸出量は前年度対比倍増している。尤も、12か月前にコロンビアではトラック業者のストライキの為、輸出量が極端に減ったことを認識しておく必要があるだろう。しかし、2016年10月以降の累計輸出量は前年同期比11.6%増えており、7月の数字も同国の順調な輸出が継続していることを示したものである。

最後にインドネシアの月間輸出量は、僅か400000袋強から1240000袋強に大幅に増えている。ロブスタコーヒー生豆の輸出量が増えた（115.1%増）ことが主因だが、アラビカコーヒーの輸出量も増加している（43.6%増）。2016年10月から2017年7月までの累計輸出量は6.5百万袋となっており、前年同期比38%増えている。

2017/18年度ブラジルコーヒー生産を見ると、コーヒー豆のサイズが小さいとの懸念がある中で、収穫作業は現在ほぼ終わっている状況だが、これから始まるベトナムの生産見通しは明るいようである。また、ブラジルは、天候については降霜懸念が去り、降雨量も十分に開花は順調に進んでいるので、現段階では、2018/19年度の収穫見通しは明るいと言えるだろう。

表 1: ICO指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Aug-16	131.00	160.78	167.54	141.41	91.79	145.37	83.47
Sep-16	138.22	168.85	176.30	149.80	96.88	154.87	88.63
Oct-16	142.68	172.28	178.96	153.15	103.65	160.07	95.30
Nov-16	145.82	177.85	184.12	157.72	103.72	165.24	95.40
Dec-16	131.70	156.64	161.78	137.14	101.85	143.04	93.66
Jan-17	139.07	164.96	168.61	145.70	108.32	152.24	100.24
Feb-17	137.68	163.67	166.35	145.50	106.49	148.64	98.46
Mar-17	134.07	158.40	160.15	139.67	106.73	143.38	99.01
Apr-17	130.39	154.97	155.40	136.09	103.58	139.25	95.34
May-17	125.40	151.41	150.00	131.21	98.36	135.45	90.35
Jun-17	122.39	146.12	143.22	123.71	101.95	128.18	93.11
Jul-17	127.26	152.51	149.66	129.19	104.94	135.71	96.03
Aug-17	128.24	155.15	149.88	131.93	102.97	138.11	94.89
% change between Aug-17 and Jul-17							
	0.8%	1.7%	0.1%	2.1%	-1.9%	1.8%	-1.2%
価格変動率 (%)							
Jul-17	7.5%	8.3%	8.5%	9.2%	5.8%	10.4%	6.3%
Aug-17	6.6%	7.2%	7.4%	8.1%	5.6%	8.6%	6.4%
Variation between Aug-17 and Jul-17							
	-0.9%	-1.1%	-1.1%	-1.1%	-0.2%	-1.8%	0.1%

* 第2限月及び第3限月の平均価格

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Aug-16	-6.76	19.37	68.99	26.13	75.75	49.62	61.90
Sep-16	-7.45	19.05	71.97	26.50	79.42	52.92	66.24
Oct-16	-6.68	19.13	68.63	25.81	75.31	49.50	64.77
Nov-16	-6.27	20.13	74.13	26.40	80.40	54.00	69.84
Dec-16	-5.14	19.50	54.79	24.64	59.93	35.29	49.38
Jan-17	-3.65	19.26	56.64	22.91	60.29	37.38	52.00
Feb-17	-2.68	18.17	57.18	20.85	59.86	39.01	50.18
Mar-17	-1.75	18.72	51.66	20.48	53.42	32.94	44.37
Apr-17	-0.43	18.88	51.40	19.31	51.82	32.51	43.92
May-17	1.41	20.20	53.05	18.79	51.64	32.85	45.09
Jun-17	2.89	22.41	44.17	19.51	41.28	21.76	35.07
Jul-17	2.85	23.32	47.57	20.47	44.72	24.25	39.68
Aug-17	5.27	23.22	52.18	17.95	46.91	28.96	43.22
% change between Aug-17 and Jul-17							
	84.8%	-0.4%	9.7%	-12.3%	4.9%	19.4%	8.9%

* 第2限月及び第3限月の平均値

表 3: 世界のコーヒー需給バランス

Crop year commencing	2013	2014	2015	2016*	% change 2015-16
PRODUCTION	152 228	148 738	151 565	153 869	1.5%
Arabica	90 281	86 152	88 252	97 269	10.2%
Robusta	61 947	62 586	63 314	56 600	-10.6%
Africa	16 244	16 013	16 338	16 426	0.5%
Asia & Oceania	46 449	45 659	49 012	44 830	-8.5%
Mexico & Central America	16 717	17 117	17 251	17 735	2.8%
South America	72 818	69 950	68 964	74 878	8.6%
CONSUMPTION	149 022	151 758	155 469	155 061	-0.3%
Exporting countries	46 109	47 245	48 244	48 298	0.1%
Importing countries (Coffee Years)	102 913	104 513	107 225	106 763	-0.4%
Africa	10 597	10 754	10 794	10 735	-0.5%
Asia & Oceania	30 701	32 550	33 611	33 669	0.2%
Mexico & Central America	5 156	5 235	5 306	5 237	-1.3%
Europe	50 179	50 912	51 590	51 544	-0.1%
North America	27 706	27 359	28 931	28 535	-1.4%
South America	24 682	24 949	25 237	25 341	0.4%
BALANCE	3 206	-3 020	-3 904	-1 192	-69.5%

単位：千袋

*推定値

表 4: 輸出国の総輸出量

	July 2016	July 2017	% change	October - July		
				2015/16	2016/17	% change
TOTAL	8 451	9 381	11.0%	96 255	101 931	5.9%
Arabicas	4 798	5 864	22.2%	59 085	64 219	8.7%
Colombian Milds	572	1 078	88.3%	11 163	12 239	9.6%
Other Milds	2 139	2 603	21.7%	19 244	22 787	18.4%
Brazilian Naturals	2 087	2 183	4.6%	28 678	29 193	1.8%
Robustas	3 653	3 518	-3.7%	37 170	37 712	1.5%

単位：千袋

Full trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨーク及びロンドン先物市場の認証在庫量推移

	Aug-16	Sep-16	Oct-16	Nov-16	Dec-16	Jan-17	Feb-17	Mar-17	Apr-17	May-17	Jun-17	Jul-17	Aug-17
New York	1.45	1.42	1.44	1.42	1.40	1.45	1.49	1.53	1.58	1.65	1.70	1.73	1.86
London	2.37	2.32	2.28	2.38	2.39	2.73	2.80	2.85	2.87	2.87	2.81	2.63	2.52

単位：百万袋

－トピックス（1）－

ICO 国際コーヒーの日

ICO のホームページに『ICO コーヒーの日 (International Coffee Day)』のページがありますので、主な内容を邦訳しますが、興味のある方は直接アクセスしてください。今年は3回目の『国際コーヒーの日』ですが、会員の皆さんにも国際コーヒーの日イベントサイトへの投稿が呼び掛けられています（締切日は9月18日）。ホームページに貼り付けられている動画やロゴなどは自由に使ってもよいとのことですので、積極的に投稿してください。

10月1日、国際コーヒーの日

9月29日（金）に始まり、2017年10月1日（日）に国際コーヒーの日を迎えますが、国際コーヒー機関の77加盟国と多くのコーヒー関連団体は第三回国際コーヒーの日と一緒に祝うことになっています。

国際コーヒーの日はコーヒー農園から喫茶店までのコーヒー豆の旅を世界全体で祝う行事であり、我々の愛してやまないコーヒー豆を生産し、収穫してくれる農家の人達に思いを馳せる機会です。

2015年、ICOは第一回国際コーヒーの日（ICD）を初めて祝いましたが、ICO『国際コーヒーの日』ウェブサイトには世界35か国から70イベントが投稿されました。去年は、54か国からの130イベントが投稿されました。ICOは再度、今年も民間法人、個人会社、公的協会、及び全世界のコーヒー愛飲家に2017年『国際コーヒーの日』を祝う週末イベントを企画し投稿して頂くようお願いいたします。

イベントアイデア

貴方の想像力を生かし、世界で愛されるコーヒーに捧げる為のイベントや活動を創造することを楽しんでください。皆さんが2017年『国際コーヒーの日』週末イベントやキャンペーンの企画をスタートする為に、いくつかのアイデアを紹介します。

- ・自宅、オフィス、喫茶店でコーヒーカップテストを主催する。
- ・あなたの喫茶店でコーヒー販売プロモーションやディスカウントセールを行う。
- ・あなたがいかにコーヒーを愛しているかをテーマにビデオを撮り、ソーシャルメディアに投稿する（#InternationalCoffeeDay）。
- ・コーヒー専門家と一緒にコーヒー講義を主催する。
- ・（写真、詩、短文、絵画、その他）コーヒーをテーマにした芸術作品のコンペを行い、作品の展示会を催す。
- ・コーヒーのワークショップやマスタークラス（抽出技術や焙煎の紹介など）を主催する。
- ・生産国への旅行を企画し一般消費者をコーヒー農園や精選設備見学に連れてゆく。
- ・コーヒー生産地域の開発プログラムに資するよう資金集めを開始する。
- ・コーヒー関連フィルムを撮影する。

以上

ートピックス（2）ー

Bloomberg News

2017年8月8日

中国の若者（Millennials）コーヒーに乗り換え（スターバックスが東進）

北京繁華街のスターバックスで、Du Beibei 女史は昼休みにコーヒーを飲んでいる。多くの中国の若者と同じで、彼女は伝統のお茶の代わりにコーヒーを飲む。

『私は毎週3～4回コーヒーを飲むが、友達と会うときにコーヒーショップを利用する、コーヒーショップの方がティーハウスより居心地がいいわ』と語った。年齢30歳台のDu女史は、今でも自宅でお茶を飲んでいるが、中国で最近増えているコーヒーショップに通い、流行りの西洋飲料の味に慣れ親しむコーヒー愛飲家でもある。

スターバックス等の大手コーヒーブランドチェーンは同国のコーヒー消費の急激な伸びに注目している。スターバックス社は先月1000店舗を越えるスターバックスの経営権を100%掌握する為に12億ドルの追加投資を行った。世界水準に比較すると同国のコーヒー消費量は未だ少ないが、世界で最大の人口を抱え最大の茶飲用国民でもある中国人のコーヒーシフトは長い目で見ると大きなインパクトを与えることになるだろう。

国際コーヒー機関（ICO）のデータによると中国のコーヒー市場は、2013/14年度までの10年間、都市化、個人所得の上昇、中間層の増加により国が豊になったお陰で、世界標準に比べると数倍の早い速度で成長した。

同国のお茶の小売り金額は未だコーヒーを大幅に上回るが（10：1）、コーヒー消費量は2000年代に世界第4位のコーヒー消費国になった日本の初期拡大時と同じようなペースで成長している。

中国の大手食品会社、Cofco International社のコーヒー部門責任者 Joseph Reiner氏によると『1963年～1973年の日本のコーヒー消費成長カーブは、中国の2014年までの10年間と相似形である』とのことである。『日本人もお茶しか飲まなかったが今やスターバックス効果が表れている』と。

ユーロモニター社のデータによると中国の11億米ドルのコーヒー市場はネスル社が支配している（市場占有率66%）。同社は中国のコーヒー消費の先行きを楽観視しており、世界で最大の消費国の一つになるだろうと述べている。

中国の可能性

中国のコーヒー需要は未だ米国の何分の一であり、日本の半分以下に過ぎないが、成長の可能性を考え既にコーヒーチェーン店間の競争は開始されている。スターバックス社は20年前に同国に進出し、現在2800店舗にまで増えている。同社は先月、中国東部地区のスターバックスグループパートナーの株式持ち分を全て買収し、大凡1300のフランチャイズ店舗の支配権を取得したとのことである。

スターバックスCEOのKevin Johnson氏はインタビューに答えて、『東部地区の店舗を全

てわが社経営モデルに変えるのはこれから 20 年の成長機会を考慮してのことである。我々はゲームを長期的視野で見ている』と言った。

一方、中国市場への参入を過去 2 回試み失敗したダンキンドーナツ社は、現在 34 店舗を展開しているが、1400 店舗に増やす計画である。同社 CEO の Nigel Travis 氏は中国の消費者の一人当たりコーヒー消費量はまだ相対的には少ないが、コーヒー消費の伸び率は高く最終的にはお茶を抜くことになるだろうと語った。

IC0 によると 2013/14 年度までの 10 年間、中国コーヒー需要の平均成長率は年率 16% だとのことである。一方米国農務省はこの間の世界の成長率は推定 2% だとしている。

クリームと砂糖

今までのところ中国の消費者は、いわゆるスリーインワン(3 in 1)と呼ばれるコーヒー、砂糖、クリーム (フレーバーが添加されたものもある) がミックスされたインスタントコーヒーを主に飲んでいる。ロンドンに拠点を置くユーロモニターの上席研究者 Limin Yu 氏によると、コーヒー小売市場の 90% 以上がインスタントコーヒーだとのことである。

殆どのインスタントタイプコーヒーは主にベトナムで生産される安価なロブスタ種のコーヒー豆で作られる。コーヒー消費が普及してくると、消費者は高級志向になり、よりマイルドで高価なアラビカコーヒー豆の需要が増える可能性が出てくるとのことである。

Cofco's 社の Reiner 氏によると『まず消費者はお茶からスリーインワンやスターバックスのフラペッチーノなどにシフトしその後レギュラーコーヒーが家庭やオフィスで飲まれるようになるのである。コーヒー市場はこのような形で発展拡大する。我々は 2021-2022 年に 450-600 百万人の中国人が中間層に仲間入りするとどうなるかを話しているのである』と。

ここで北京に話を戻そう。Kathy Chen 嬢(28 歳)は次のように言っている。『私は、イタリアのエスプレッソからベトナムのドリップコーヒーまで全てのコーヒーが好きよ。コーヒーショップは友達と語らいリラックスできる場所なの。それと私が最も好きなのはボデューの強いインドネシアのマンデリンコーヒーよ』と。

トピックス (3)

飲食店の傾向調査を行う NPDandCREST 社が最近『持ち歩きコーヒー (Coffee-to-go)』について興味深い独自の調査結果を発表しましたが、その調査結果について Niall McCarthy 氏がフォーブス誌に寄稿した記事をお届けします。

2017 年 8 月 11 日、寄稿者 Niall McCarthy

あなたは入社する前に早起きしておいしいコーヒーを自分で作るタイプですか、それとももう少し長く寝て『持ち歩きコーヒー』を購入して会社に持ち込むタイプですか？

『持ち歩きコーヒー (coffee on-the-go)』がどれほど飲まれているかは国によって大きくばらつくが、半分以上がこのコーヒーで占められている国がある。一方、NPDandCREST 社

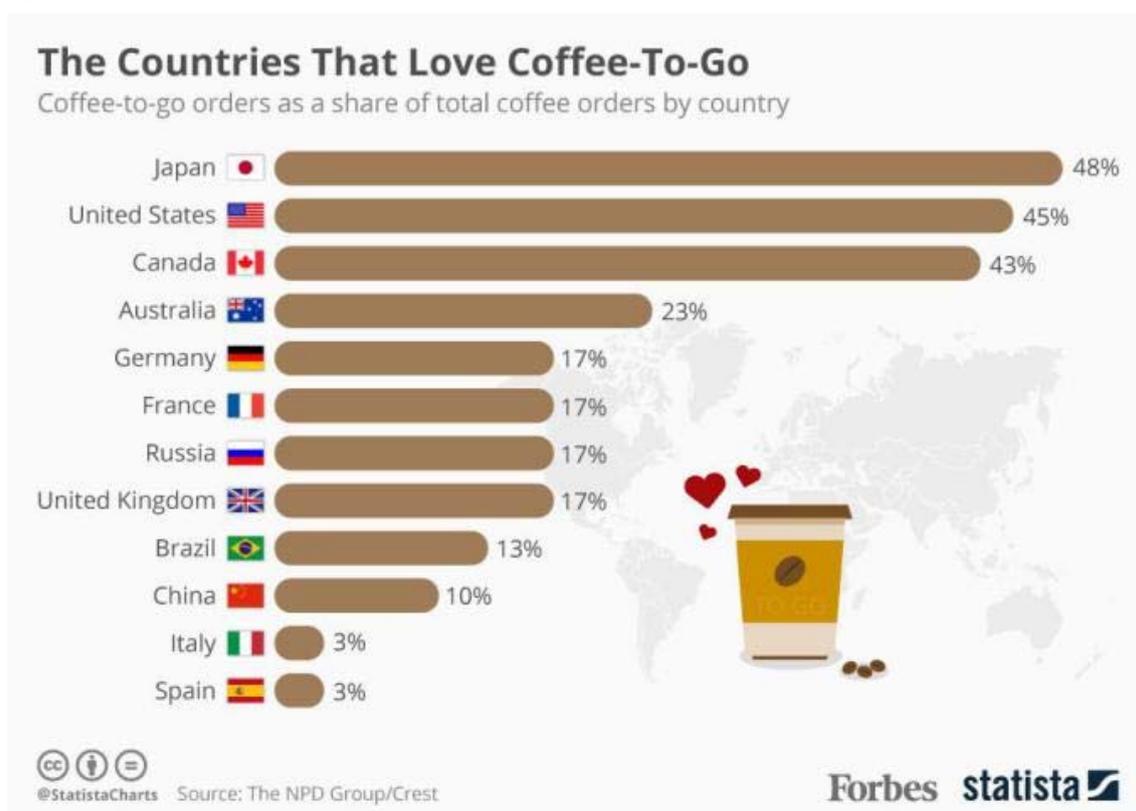
の調査によると、スペインとイタリアは特にこのタイプのコーヒー普及率が低く屋外で飲む注文コーヒー（coffee orders）のたった3%を占めるに過ぎない。

特にイタリア人は、『持ち歩きコーヒー』を持ち運ぶよりは、おいしいエスプレッソやカプチーノを、街角のカフェやバーで啜って（sipping）飲むスタイルを好む国民である。しかし、この古い習慣は変わるかもしれない。何故なら、今年初めスターバックスの前CEO ハワード・シュルツ氏が、2018年にイタリアミラノに一号店を出店すると発表したからである。同社はイタリアの150000店近くのカフェやバーから激しい抵抗を受けることになる訳で、イタリア国民に彼らの『持ち歩きコーヒー』を飲むよう説得するのは至難の業だろう。

スターバックス社は米国やカナダではコーヒー愛飲家からの『持ち歩きコーヒー』への抵抗は少なかったようである、なぜならこのタイプのコーヒーの屋外で飲む注文コーヒーのシェアは夫々既に45%、43%に上るからである。日本のシェアは更に高く48%に上っている。英国や中国のような伝統的にお茶を飲む国民の間でも『持ち歩きコーヒー』は着実に普及しているようだが、伝統の壁を打ち破るまでには時間がかかりそうである。

このグラフを見ると生活スタイルが忙しい国では『持ち歩きコーヒー』の普及率が高くイタリアやスペインのようにゆっくりした生活スタイルを好む国では伸び悩む傾向があると言えるのではなからうか。スターバックスのイタリアへの進出が同国のコーヒー愛飲家の飲用スタイルを変えるかどうかは興味深いことである。

『持ち歩きコーヒー（Coffee-to-go）』を好む国々



—トピックス（4）—

タイム（TIME）

2017年、8月29日 Amanda MacMillan 寄稿

スペインの研究によると、コーヒーを一日4杯飲んでいる成人の死亡率は10年の研究期間中、コーヒーを飲まないもしくは稀にしか飲まない人に比べ64%低いことが判明した。著者によるとコーヒーと死亡率の低さの関係は特に45歳以上の人において顕著だったことから、コーヒーの持つ病気への予防要素が特に年配者にとって重要だということを示唆しているとのことである。

バルセロナで日曜日（8月27日）に開催された欧州心臓学会で発表された内容は未だ医療ジャーナルには掲載されていないものである。過去の研究は、コーヒー飲用が種々病気による早死にリスクの軽減を示唆するものだったが、この研究はコーヒーが異なった年齢の人にどのような影響を与えるかという新たな角度から考察されたものである。

この研究は研究者が、この長期間研究プロジェクトに参加した20000人近いスペインの大学卒業生の健康データや食事回数問診表を分析し、平均10年間に亘り彼らを追跡調査したものである。

調査期間中、より多くコーヒーを飲む人（一日4杯以上）は全く飲まないもしくは稀にしか飲まない人に比べ死亡リスクが64%低かった。また一日にコーヒーを2杯飲む人はこの10年間、死亡リスクが22%低かったとのことである。

この関連性は、研究者が性別、喫煙、更には砂糖をコーヒーに入れたかどうかを考慮した場合にも存在した。

研究者が年齢層別に調査すると、より高年齢の人の中でコーヒーの予防効果が高いことが判明した。即ち、調査開始時に45歳以上の成人の間では、一日2杯コーヒーを飲む人の10年間の死亡リスクは、30%低いことが分かった。44歳以下の人の中では、死亡リスクが下がったり、上がったりする結果は見られなかった。

研究ではコーヒー消費と死亡率との関連性についてその原因と結果を解明することはできていない。スペイン、パンプロナ市ナバラ病院の心臓学者で研究の主著者 Adela Navarro 女史は、この結果を見るとコーヒーは特に年配の人にとって病気に対する予防効果が高いことを示唆していると言っている。彼女は、健康な人にとり一日4杯のコーヒーは健康な食生活維持にとって問題ない範囲だと語った。彼女のこの言葉は、今年初めに発行された『食

品と科学の毒物学』誌に掲載された『一日に 400 ミリグラムまでのカフェイン摂取は（コーヒー8 オンスカップ 4 杯）殆どの人にとり安全だ』との内容に一致するものである。

7月に発行された『Annals of Internal Medicine』誌に掲載された2つの研究発表でも同様にレギュラーコーヒー飲用は死亡リスクを軽減するとしている。即ち、一つが、アフリカ系アメリカ人、日系アメリカ人、白人などを含む米国人を調査対象とした研究であり、もう一つが、欧州の10か国に亘る人々を対象とした研究である。

年配の人々の長寿にとりコーヒーのどんな要素が効果をもたらしているのだろうか？『カフェイン以外にもコーヒーは、炎症退治で知られる成分や、加齢特有の病気に対し共通に効果のある成分など、有益な効果をもたらす複数の生物活性要素を持っている』と Navarro 女史は述べている。最後に彼女は、『コーヒーは幅広く世界で飲まれている飲料なので、健康効果がたとえ僅かであろうと全体としては重要な結果をもたらすことになる』と言った。

以上